

第2章 旧前田侯爵家駒場本邸の概説

第1. 駒場本邸の価値

- 昭和初期、前田侯爵家の本邸として造られた建造物と庭園を良好に残し、当時の華族等の邸宅の全体像を知ることができます。
 - ・約 40,000 m²に及ぶ邸宅地に建造物 7 棟と庭園がほぼ当初の姿で敷地に残っています。
 - ・当初の外周塀が残り、周辺の環境も維持され、敷地内の雰囲気を守られています。
 - ・霊社跡、煎茶室周辺敷石、庭中門周辺敷石等、失われた建築物の痕跡や、前田家居住期の古写真・設計図・文献資料などが多数残され、当時の様子を知ることができます。

- 東京都の近代邸宅のうち、洋館と和館が並び建ち双方の庭園が一体的に残る、唯一の遺構であり全国でも稀少です。
 - ・和洋館並列型住宅は、当時の華族等邸宅の特徴の一つで、洋館に居住し和館を接客空間のみとするのは、全国的にも残存例が少ない形式です。
 - ・芝生地を中心とした洋風庭園（芝庭）と流れを中心とした和風庭園の両方を併置しており、当時の華族等邸宅の庭園の典型的な姿が残っています。



図2-1 駒場本邸洋館(前田家所蔵古写真)



図2-2 駒場本邸和館(前田家所蔵古写真)

第3章 保存管理計画

第1. 基本的な考え方

○ 前田侯爵家居住期の復元的整備を目指します。

- ・ 目標とする保存年代は、前田侯爵家が駒場への引越しを完了した昭和5年から、前田利為が戦没した昭和17年までの間とします。
- ・ 文化財的価値を形成する箇所は、上記の保存年代の姿を目指し、洋館を含んだ建造物と庭園とが一体的に構成された景観を再現していきます。

○ 文化財の本質的価値を継承し、歴史を学べる公園として活用します。

- ・ 文化財庭園として保存した上で、住民が身近に歴史や価値について理解し、学習できるような場づくりに配慮します。
- ・ 周辺環境については、良好な環境を維持するための取り組みを今後も継続していきます。

第2. 旧前田侯爵家駒場本邸を構成する要素

計画区域内の要素は、文化財としての「本質的価値を構成する要素」と「本質的価値を構成する要素以外の要素」の2つに分けられます。「本質的価値を構成する要素」が文化財に指定されているものをさしており、駒場本邸としての本質的価値を有するものです。

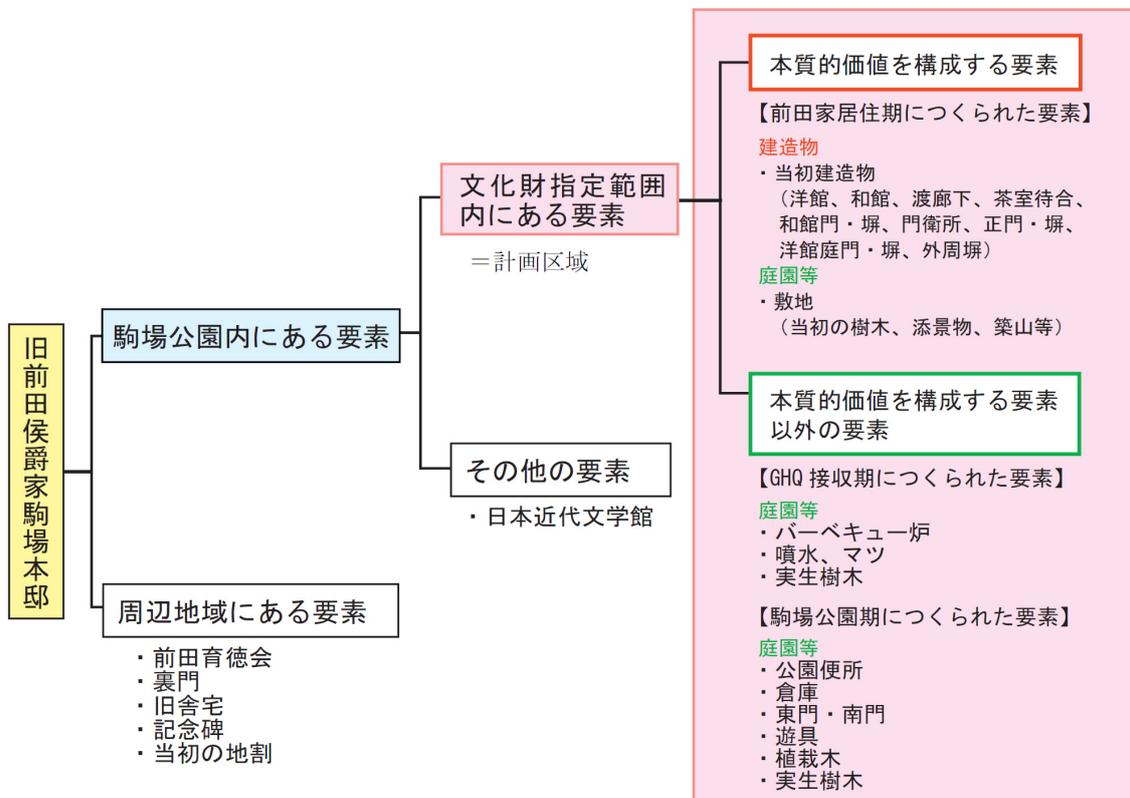


図 3-1 旧前田侯爵家駒場本邸を構成する要素-1